

日本政府はなぜ  
抗議しない



東京外語大教授  
(現代中国学)  
中嶋嶺雄氏

中国当局は学生たちの民  
主化要求デモを、反革命・  
「暴乱」と規定しています  
が、むしろ無抵抗の学生や  
市民にたいし武力で鎮圧し  
大勢の犠牲者をだしたやり  
方こそが、「暴乱」だとい  
わざるをえません。

この中国の事態を各国政  
府は厳しく批判しています

が、日本政府の対応は問題  
です。武力による弾圧はや  
めるべきだと、なぜいえな  
かったのか。市民にたいし  
て武力を行使するなという  
ことは内政干渉ではありません。  
日中友好の立場から  
も当然いふべきです。

いまの中国は、スターリ  
ン時代の強権政治と同様で

す。

鄧小平は国家主席でも  
なければ、首相でもなけ  
れば、総書記、つまり党の  
書記長でもない。制度的に  
は党中央委員会に直属する  
党中央軍事委員会という組  
織の長にすぎません。退  
陣、民主化の要求は抑えき  
れないし、これに軍事力を  
発動し一党独裁体制を強化  
し、恐怖政治を断行するな  
ら、それは中華人民共和國  
の解体への道です。

社会主義のイメージダウ  
ンもきわめて大きいし、社  
会主義そのものの当否が深  
刻に問われるでしょう。日  
本共産党が中国共産党と一  
線を画してきたのはせめて  
もの救いですね。